

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

1 いばらきの花振興協議会（茨城県）

2 協議会構成団体

茨城県農林水産部、茨城県花き園芸協会、全国農業協同組合茨城県本部、（公社）茨城県農林振興公社、花キューピット協同組合茨城支部、（公社）日本フラワーデザイナー協会茨城県支部、茨城県花き卸売市場協会、茨城花き流通センター農業協同組合、茨城県つくば芝振興協議会、茨城県フラワーパーク、大好きいばらき県民会議、茨城県農業会議

・主な取組

（１）いばらき花フェスタの開催

①取組内容

県産花きのPRを図るため「いばらき花フェスタ」を開催し、フラワーセレクション、フラワーガーデン展示等を実施した。

平成 29 年 10 月 28 日 来場者約 3 万人

②取組による成果、参加者の反応

「茨城をたべよう収穫祭」との同時開催により幅広い世代の方々に対し、県内で生産されている多様な花きを紹介することが出来た。（アンケートで「このイベントで茨城県が花の産地だと知った」と約 5 割が回答した。）

③今後の課題、取組の予定

県産花きのPRを図るため、平成 30 年度も引き続き開催する予定。



フラワーガーデン展示



フラワーセレクション

（２）幼稚園・小学校等での花育体験教室の開催

①取組内容

児童等が花きに親しむ機会を提供することを目的に平成29年7月から平成30年2月まで県内の幼稚園、小学校などで計62回の花育体験教室を開催し、1,266名の子供たちがフラワーアレンジメント花壇づくり、生け花などに取り組んだ。

②取組による成果、参加者の反応

アンケートでは「プレゼントするために一生懸命作業した」、「花を大切にするようになった」、などの意見を得られた。

③今後の課題、取組の予定

幼稚園などから継続の要望があるため、平成 30 年度も引き続き開催する予定。



フラワーアレンジメント



花壇づくり

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

- 1 栃木県花き振興協議会（栃木県）
- 2 協議会構成団体 一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会及び花き部会、全国農業協同組合栃木県本部園芸部、株式会社宇都宮花き、栃木県生花商協同組合、公益財団法人栃木県農業振興公社とちぎ花センター、栃木県農政部生産振興課
- 3 主な取組

（１）小学生を対象とした花育体験

①取組内容

小学生を対象に花きに親しむ機会を提供することを目的として、平成 29 年 6 月から平成 30 年 3 月の間、県内の小学校のべ 18 校で花育体験を実施し、のべ 852 名の児童が花との触れ合いを楽しんだ。

②取組による成果

参加した児童の保護者を対象に、アンケートによる花育体験後の花き購入頻度を調査した結果、30%もの保護者が花や花苗を買う回数が増加したと回答し、児童の花に対する興味・関心が向上する非常に効果的な取組であることが示された。

③今後の取組予定

小学生をはじめ、保育園から高校生まで多くの子供たちに花と親しむ機会を引き続き提供する予定である。



小学生を対象としたフラワーアレンジメント



小学生による花壇づくり

（２）花文化展示および秀品花き展示の実施

①取組内容

「花と苺のフェスティバル」の開催に合わせて、一般県民の方々に対し日常生活における花きの利活用促進を図るため、花文化展示と各種展覧会で高い評価を得た県産花きを展示紹介した。

②取組による効果

2 万人の来場者の多くが飾花展示をご覧になり、「本当に素晴らしい限り」「癒やされる」などのコメントを頂くなど、栃木県産花きの素晴らしさをPRできた。

③今後の取組予定

いい夫婦の日やバレンタインデーに合わせて花の魅力を伝える取組や、多くの県民が集まるイベントにおいて引き続き花きを身近に感じてもらう取組を実施していく。



花と苺のフェスティバルにおける花文化展示

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

1 群馬県花き振興協議会（群馬県）

2 協議会構成団体

群馬県農政部、群馬県園芸協会、全国農業協同組合連合会群馬県本部、
群馬県生花商業協同組合、群馬県中央園芸株式会社

3 主な取組

（１）学校・福祉施設等での花育体験推進

①取組内容

小学生を対象に花や緑に親しむ機会を提供し、花きの消費拡大のきっかけ作りや花の魅力を感じ豊かな心をはぐくむことを目的として、平成 29 年 10 月の 2 日間、吉岡町内の小学校 2 校で花育教室を開催し、合計 249 名の児童が 1 人 1 鉢の寄せ植えを作成した。



花育教室の様子

②取組による成果

参加した児童とその親を対象としたアンケートによる消費実態調査の結果、全体の 62.7%が教室実施後に児童が花に対する興味・関心をもつようになり、また体験した児童やその家庭のうち 40.9%が昨年同時期に比べて花の購入頻度が増えた。

③取組による課題

アンケート結果や児童の反応から、花育教室を通じて楽しみながら花きへの関心を高め花きの消費や需要を喚起できるため、県内他市町村も含めて継続的に花育教室を実施できるプログラムの作成や関係団体への働きかけが必要。

（２）園芸療法普及講演会の開催

①取組内容

花の持つ魅力や効用を医療・介護に役立てる園芸療法の普及を目的として、平成 29 年 12 月 12 日に、県内の作業療法士等医療関係者を対象に園芸療法普及講演会を開催し、合計 60 名がフラワーアレンジメント体験を通じて園芸療法を学んだ。



園芸療法講演会の様子

②取組による成果

講演会開催後、生花店に対して福祉施設等からの問合せが増加し、園芸療法の認知度や関心が高まった。また、参加した医療関係者は、園芸療法の効果や実際の取組方法を学ぶことができ、導入検討のきっかけとなった。

③取組による課題

園芸療法の認知度向上や花きに対する正しい理解促進、取組方法の周知を図るため、今後も地道な普及活動が必要。平成 30 年度も県内医療関係者を対象に講演会が開催される予定。

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

1 さいたまの花普及促進協議会（埼玉県）

2 協議会構成団体

埼玉県、埼玉県花き園芸組合連合会、埼玉県植木生産組合連合会、全国農業協同組合連合会埼玉県本部、埼玉県花き園芸市場協会、埼玉県生花商組合連合会、（公社）日本フラワーデザイナー協会埼玉県支部、埼玉県インドアグリーン協会、（一社）日本ハンギングバスケット協会埼玉支部、埼玉県いけばな連合会

3 主な取組

（１）花文化展示会の開催

①取組内容

埼玉県の豊かな花文化や花のある暮らしの紹介等を通して、花きの魅力を発信し、花きの利用増進を啓発するため花文化展示会を計３回開催した。

・ 第１回

６月１１日～１０月１７日

熊谷スポーツ文化公園内花壇

来場者数 １５,０００人

・ 第２回

１２月１日～３日

イオンモール川口前川

来場者数 ３,０００人

・ 第３回

１月１９日～２１日

モラージュ菖蒲

来場者数 １５,０００人



第３回花文化展示会

②取組による成果、参加者の反応

開催地域の生花店を対象としたアンケートを実施した結果、花文化展示会開催前と比べて日販売平均金額が１６％増加した。

また来場者を対象としたアンケートでは、花文化展示会に参加して花や緑を飾ろうと思った人が９４％であり、花きの利用増進の啓発に十分効果があったと考えられる。

③今後の取組予定

平成３０年度も継続して花文化展示会を実施する予定。

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

1 千葉県花き振興地域協議会（千葉県）

2 協議会構成団体

千葉県花き園芸組合連合会、千葉県植木生産組合連合会、（公社）千葉県園芸協会、全農千葉県本部、（株）第一花き柏支社（卸売業者）、（一社）日本生花通信配達協会千葉県支部（小売）、千葉県茶華道協会、千葉県農林水産部

3 主な取り組み

（１）学校・福祉等での花育体験推進

①取組内容

児童がフラワーアレンジメントや生け花、花壇づくりを体験し、花に触れる機会を通じて県産花きに対する興味や理解を深め、花のある暮らしの定着と「豊かな心」を育むことを目的に学校教育における花育体験を開催した。

- ・実施時期：平成 29 年 7 月～平成 30 年 1 月
- ・実施校数：保育園等 11 園、小中学校 55 校、高校 13 校、計 79 校・園（4,045 名）



花壇づくり 「授業の様子」

②取組による成果

参加した児童の 97%が楽しかった、また体験したいと感じ、92%から千葉県の花き生産について知ることができた、という声が聞かれた。また、花育体験した保育園、小中学校等の保護者の 18%が花きの購入頻度が増加したとの回答があった。

③今後の課題、取組の予定

平成 30 年度は、約 30 校の学校・保育園等でフラワーアレンジメントやいけばな、花壇づくりを実施する予定である。

（２）県産花きを活用した公共施設での展示

①取組内容

県産花きの理解促進と需要拡大のため、県庁ロビーで生産者団体による季節の花の展示を行った。

実施時期

- ・平成 29 年 6 月 19 日～23 日
（ひまわり、トルコギキョウの展示）
- ・平成 29 年 11 月 30 日～12 月 7 日
（カーネーション、ゆり、サンダーソニア、ペゴニア等の展示）
- ・平成 30 年 2 月 22 日～27 日（カラーの展示）



ひまわりとトルコギキョウの展示様子

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

②取組による成果

来場者アンケートの結果、95%以上が多くの花が千葉県で生産されていることを知ることができた、80%以上が今後、花を購入するとき、県産花きを意識するとの回答があり、県産花きの認知度向上につながった。

③今後の課題、取組予定

引き続き、多くの人が集まる場所での PR 活動を実施し、県産花きの認知度向上及び需要拡大に取り組む。

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

- 1 東京都花き振興協議会（東京都）
- 2 協議会構成団体 東京都、東京都花卉園芸組合連合会、（一社）日本花き卸売市場協会、花き部仲卸組合、花き事業協同組合、（一社）日本生花通信配達協会、（公社）日本フラワーデザイナー協会、東京都生花商連組合
- 3 主な取組

（１）日本古来の花飾り文化再興のための展示

① 取組内容

展示タイトル“にっぽんの花かざり再発見”
～羽田空港国際線ターミナル 4F 江戸舞台展示～
日本の花き需要を支えてきた花（自然）への畏敬の念を抱く感性の掘り起しを図り、現代の一般に定着した「習い事いけばな」の概念を、生活の変遷の中でその都度昇華していく自然を愛でる表現技法としての「いけばな」であることをアピールする。
サブタイトル「花飾り再発見」として草木、花を自由に飾る喜びの感性を喚起する事とした。



草月流



小原流

- 第 1 回 11/24（金）～12/1（金）草月流展示 「風」
第 2 回 1/16（火）～1/22（月）小原流展示 「冬の大写景」

②取組による成果

アンケートを 2 種実施

一般来場者向け

展示への興味を通じ、日常生活との関わりを推し量るとともに、花を飾る動機づけとして、テーマの共有が有意義であったかを確認

有効回答 122

小売店、卸、仲卸、各種教室主催者等花き販売事業者向け

「展示=売上」の直接効果が難しい中、展示行為を通じて売上向上を図る主旨を共有、また各事業活動への影響測定

有効回答 170

会場で一般の方への花飾り動機づけを徹底し、生花店頭へと促す効果が感じられたとの回答を得た。自然を感じる日本の生産物が、いけばなの技術をもってひろく伝えられたことは国内外に大きな発信となった。

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

③ 取組による課題

消費拡大を目的とする事業が、特定の物日に傾倒しているように感じられるが、そもそもの花を愛でる感覚が希薄になっていることを実感した。

この環境下で物日集中型のイベント実施では一過性の需要喚起にとどまってしまうことを懸念する。改めて「いけばな」について業界内の職員も学ぶ必要があると感じたところ。

花屋さんの店頭が花への興味喚起の舞台になるべきである。

(2) 学校・福祉施設等での花育体験推進

① 取組内容

未就学児（4 歳児、5 歳児）・小学生・中学生を対象に花きに親しむ機会を提供することを目的として、花育活動を展開し、合計 14,536 名の児童が花育体験をした。

| | | | |
|---------|-------|---------|---------|
| 提供数：保育園 | 142 園 | 172 クラス | 4,369 名 |
| 幼稚園 | 23 園 | 33 クラス | 1,305 名 |
| 小学校 | 66 校 | 268 クラス | 8,841 名 |
| 中学校 | 1 校 | 1 クラス | 21 名 |

② 取組による成果

参加した児童とその保護者を対象に行ったアンケートによる消費実態調査の結果、花育体験日からアンケート提出までの短期間に花を購入したという割合が 18%に達しており、中でも近隣の花店を利用したと回答した家庭が 66%だった。

③ 今後の取組予定

アンケート調査結果から、「花育」の定着を図るためには、一回限りの花育より継続的な花育が有効であると思われることから、継続的に花育ができるようなプログラムの作成及び小学校等への働きかけが必要。

花育活動を体験した施設関係者、対象児童の保護者のアンケート結果からは、児童の心の成長に寄与した、花への興味が深まったという成果が得られており、花育活動の継続が将来を担う世代の成長に良い影響を与えられていることが確認できた。

市場単位で、行政・自治体と連携して実施する体制の構築が重要である。この体制の構築のためには、国として推進する事業の存在が有意義である一方、効果測定では国として求める「短期的な消費拡大」を明確な数値結果として示せていない。

日本国でなぜ、「花きの生産が必要なのか」「花のある暮らしがなぜ重要なのか」をエビデンスをもって示すことが必要であり、そのエビデンス獲得のためには、花育活動を継続しこの活動を科学的に評価する専門家の協力を得て取り組んでいく。

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

1 神奈川県花き・植木振興地域協議会（神奈川県）

2 協議会構成団体

（一社）神奈川県園芸協会、神奈川県花き園芸組合連合会、神奈川県植木生産組合連合会、神奈川県花き卸売市場連合会、神奈川県花き生花小売商協同組合、日本ガーデンセンター共同機構神奈川県支部、日本ハンギングバスケット協会神奈川県支部、神奈川県（農業振興課、農業技術センター、フラワーセンター大船植物園）

・主な取組

（１）フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催

①取組内容

- ・平成 29 年 11 月 26, 27 日に開催した県花き展と同時開催で、県内各産地の花を使ったフラワーディスプレイを各地域の生産者や農業高校生が作成し、花きの県内産地を PR するとともに、生活への取り入れ方を提案した。（5 地区）来場者数 1, 200 人。
- ・同会場で、ビクトリーブーケコンテストを開催した。後日開催の湘南国際マラソンの優勝者にも授与した。
また、県花き品評会出品者の花材を用いた押花作品の展示、県内高校生の陶芸作品を用いた生け花の展示を行った。
- ・伝統工芸鎌倉彫にフラワーアレンジメントを展示し、新たな花の利用方法を PR した。



フラワーディスプレイ



湘南国際マラソン授賞式

②取組による成果

- ・高校生や押花、生け花関係者など、新たな関係者の来場が増え、花きの県内産地の PR ができ認知度は上がった。
- ・アンケートにより花を生活に取り入れたい方が 99%（県花き展）、98%（鎌倉彫展）と花を家に飾る動機付けとなったことを確認した。
- ・追跡調査により、94%（県花き展）、89%（鎌倉彫展）の方が家庭で花を飾った。花きの購入は、以前から購入している方を含めて 85%（県花き展）、66%（鎌倉彫展）の方が行った。



鎌倉彫とフラワー展示

③取組による課題

- ・県産花きの認知度を深める催しの企画、開催時期、場所について検討。
県産花きの消費拡大を進めるため、魅力ある花きの展示等を PR する。

(2) 学校・福祉施設等での花育体験推進

① 取組内容

高齢者福祉施設等において、園芸療法に基づく園芸体験をモデル的に実施し、リハビリの一環やサークル活動に取り入れてもらうため、また、地域で生産される四季折々の花を施設で活用する方法について検討するため、平成 29 年 10 月から平成 30 年 3 月の間、県内 8 カ所の高齢者施設等で園芸体験を実施した（参加人数延べ 414 人）。

講師は、日本園芸療法学会の認定を受けた園芸療法士に依頼し、園芸体験は、植物の生育の過程を通して本来の効果を発揮する園芸療法の趣旨に沿ったプログラムとし、1 回目に寄せ植えの作成、2 回目に成長した花を用いた押し花の作成、3 回目に押し花を使った作品作りとした。

また、花材は実施福祉施設近隣の生産者から調達し、生産者も園芸体験に参加した。

事業終了後、成果報告会として「園芸療法シンポジウム」を開催し、園芸療法のさらなる普及を図った。

② 取組による成果

参加した介護支援者及び施設へのアンケートでは、園芸活動を行うことでよい影響があると思うとする回答が 100%（心理的 91%、肉体的 60%）と高く、参加者に対する園芸療法の効果を実感していただけた。

また、全施設が地元産花苗の継続利用を希望し、花苗を調達した近隣生産者と施設が協力して、園芸療法士が入らなくても園芸活動が継続されたり、花壇の植栽を行うなど、花きの利用や活動について新たな可能性を確認した。

③ 今後の取組予定

アンケート調査結果から、施設で園芸活動を継続するための課題として「栽培管理の知識」「実施するためのノウハウ」「介助者の労力的負担」が多くあげられ、活動の定着を図るためには次年度以降のフォローが必要である。



近隣生産者による花苗の説明(1回目)



押し花を使った作品作り(3回目)

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

1 山梨県花き振興協議会（山梨県）

2 協議会構成団体

山梨県花き園芸組合連合会（生産者団体）、全国農業協同組合連合会山梨県本部、（株）山梨園芸市場、山梨県生花商業協同組合（花き小売り団体）、日本フラワーデザイナー協会山梨県支部（実需者）、（株）ハイジの村（県立フラワーセンター指定管理者）、山梨県農政部

3 主な取組

（１）小学校での花育体験の実施

①取組内容

フラワーアレンジメントおよびコンテナガーデンの作製体験を通じ、花きの利用や魅力の理解浸透を図り、花きの需要拡大を目的に、小学校での花育体験を実施。

| | 実施日 | 学校名 | 学年 | 人数 |
|---|--------------------------|----------------|-----|----|
| 1 | 平成 29 年 10 月 6 日 (金) | 南アルプス市立白根百田小学校 | 1 | 50 |
| 2 | 平成 29 年 10 月 20 日 (金) | 笛吹市立石和東小学校 | 2 | 36 |
| 3 | 平成 29 年 10 月 26 日 (木) | 甲斐市立双葉西小学校 | 5 | 45 |
| 4 | 平成 29 年 11 月 2 日 (木) | 甲州市立東雲小学校 | 1・2 | 52 |
| 5 | 平成 29 年 10 月 10 日 (金) | 甲府市立善誘館小学校 | 1 | 26 |
| 6 | 平成 29 年 11 月 21 日 (火) | 笛吹市立石和南小学校 | 2・3 | 65 |
| 7 | 平成 29 年 11 月 21 日 (火) | 南アルプス市立小笠原小学校 | 3～6 | 66 |
| 8 | 平成 29 年 12 月 4 日 (月) | 南アルプス市立白根東小学校 | 5 | 61 |

- ・花育体験実施校 8 校
- ・花育体験人数 401 人

②取組による成果、参加者の反応

- ・アンケート調査で、「体験が楽しかった」や「またやってみたい」等の意見が多数あり、活動を通じ、子ども達は草花に対し興味をもち、花への理解や関心を示す意見が 90% 以上あった。



③今後の取組の予定

- ・各市町村の教育委員会を通じて公募を行い、継続的に実施する予定。

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

(2) やまなし花フェスタ 2017 の開催

①取組内容

花きの魅力を発信し、花への関心を高め、本県花きの需要拡大を図るとともに、花き産業並びに花き文化の発展に資することを目的に開催。

○開催期間 平成 29 年 11 月 23 日（木・祝日）～26 日（日）

○内 容

- ・ 県産花きを利用した装飾展示
- ・ 花文化の展示（華道）
県内高等学校の華道部員による
生け花の展示を行い、文化交流
の場とした。（出品数：32 点）
- ・ 講演会の開催
県内外で活動をしている

「TEAM TIKS

（チームティクス）」による花を使ったパフォーマンスを実施。

（平成 29 年 11 月 26 日（日）2 回：計 181 人が参加）

演題：「花の持つ力、可能性、魅力を山梨から」

講師：「TEAM TIKS（チームティクス）」

hanakuni 田代 秀昭 氏

Bonne vie 小松 弘典 氏

hanauta 清水宏次郎 氏



県産花きを使った装飾展示

②取組による成果、参加者の反応

4 日間で来場者が延べ 10,122 人と大変盛況であった。

来場者からは、「こんなに多くの種類の花、また素敵な花が県内で生産されていることが分かり良かった」という意見もあり、県産花きの PR に繋がった。

③今後の取組の予定

県産花きの魅力、また花への関心を今後も高めていくため、来年度についても、花フェスタおよび花育体験教室を実施する。



花文化の展示（華道）



講演会の開催状況

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

1 長野県花きイノベーション推進協議会（長野県）

2 協議会構成団体

長野県、全国農業協同組合連合会長野県本部、南信ハウスカーネーション組合、長野県鉢花園芸組合、日本ばら切り花協会長野県支部、長野県洋らん組合、長野県生花商業協同組合、一般社団法人長野県原種センター、株式会社松本花市場、株式会社長野中央園芸市場

3 主な取組

（１）生産技術向上交流支援

①取組内容

・ グラジオラス主産県（茨城、鹿児島、長野）の連携による安定供給と需要拡大を図るため、長野県（松本市、山形村）にて産地交流会を開催（９月 28 日～29 日、3 県関係者 72 名出席）。



産地交流会でのほ場視察の様子

②取組による成果

・ グラジオラスの市場における需要動向や装飾現場での使われ方、実需から求められている品質等を産地間で情報共有し、今後の産地間連携の方向性を決定した。

③今後の取組予定

・ リレー出荷や需要拡大に向けて、現況の確認や需要の高い品種、業務用需要についての活発な議論がなされたため、今後も 3 県で連携して取り組んでいくこととなった。

（２）花育体験及び福祉園芸体験の実施

①取組内容

・ 小学生が花きに親しむ機会を提供することを目的として、平成 29 年 9 月から 11 月の間、長野県内の小学校 4 校で花育教室（フラワーアレンジメント（生け花）体験、出前授業、ほ場見学）を開催し、合計 141 名の児童が花育体験をした。

②取組による成果

・ アンケート調査結果では、98%の児童から花への関心が高まったと回答があり、効果的な花育活動を行うことができた。

③今後の取組予定

・ アンケート調査結果から、花育体験を「またやりたい」という回答が 9 割を超えており、継続的な花育が有効と考えられることから、継続的に実施する仕組みづくりが必要。



小学校での花育体験の様子

平成 29 年度国産花きイノベーション推進事業 実施事例

1 ふじのくに花の都しずおか推進協議会（静岡県）

2 協議会構成団体

静岡県、静岡県花卉園芸組合連合会、静岡県鉢物生産振興会、静岡県花き新品種育成研究会、静岡県花き市場連合会、NPO法人花咲くしずおかフラワーネットワーク会議、静岡県花の会連合会、静岡県華道連盟

3 主な取組

（１）フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催

①取組内容

高校生等の若い世代を対象に、花き消費の裾野拡大と花文化の新たな世代への浸透を目的に、平成 30 年 1 月 13 日「花の都しずおかフラワーデザインコンテスト 2018」を開催した。



フラワーアレンジ作成風景

| 部門 | 参加数 |
|-------------|--------|
| フラワーアレンジメント | 45 人 |
| ミニガーデン | 11 チーム |
| フラワーパフォーマンス | 6 チーム |
| フォト | 157 点 |



ミニガーデン作成風景

②取組による成果

コンテスト参加者を対象にしたアンケート調査の結果、参加者の 77.5% で花きへの関心が高まり、同様に、参加者の 44.5% で花きの購入機会が増加した。

③今後の取組予定

花きへの関心の高まり及び購入機会について、事業効果が認められることから、引き続きコンテストを開催する。

（２）企業や介護施設における花と緑の活用推進

①取組内容

暮らしの様々な場面での花と緑の活用を推進するため、ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクールを実施した。企業や地域団体から 104 点の応募があり、受賞者は、平成 30 年 1 月 13 日開催の食と花の都の祭典において表彰するとともに、優良事例集(5,000 部)としてとりまとめた。

また、企業等における効果的な花壇づくりを推進するため、平成 30 年 1 月 14 日に推進セミナーを開催し、73 人が参加した。

②取組による成果

一連の取組により、企業における「花のある職場づくり」の機運が高まり、新たな取組への波及が見られるようになった。また、従来から活動する地域団体の一層の意欲向上を図ることができた。

③今後の取組予定

「花のある職場づくり」に取り組む県内企業団体等を増やすため、アドバイザー派遣制度の見直しを行う。